田原市

あなたと議会を結ぶメッセージ

議会だより

No.104
令和8年11月1日号

今月の渥美半島の花
「アルストロメリア」



令和8年第3回定例会（8／28～9／18）

■定例会で決まったこと・・・・・・・ 2ページ
■令和7年度決算 ・・・・・・・・・・ 4
■議案一覧・主な質疑・・・・・・・・ 6
■一般質問（委員会代表質問・個人質問）8

その他

■議員とたはらトーク・・・・・・・・・・ 15
■行政視察報告・・・・・・・・・・・・・ 17
■議会の活動・・・・・・・・・・・・・・ 19



話和輪

未来へ向かう、僕たち・私たちの第一歩

第42回ちびっこ道場に参加した皆さん（インタビュー20ページ）

認定しました

令和８年 第３回 定例会 (8月28日～9月18日)

このようなことが決まりました

市長提出議案	１５件
議員提出議案	１件

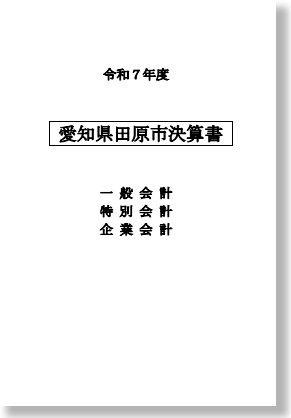
令和８年第３回定例会を８月２８日から９月１８日まで開催しました。
令和７年度決算認定を含む市長提出議案１５件を、いずれも原案のとおり同意・可決・認定しました。また、議員提出議案の意見書１件を可決し、国の関係機関に送付しました。

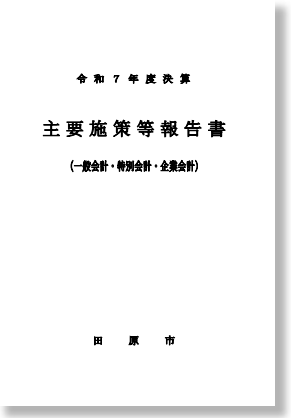
▷関連４～７ページ

議案第82号令和７年度一般会計歳入歳出決算認定ほか４件

令和7年度決算を認定しました

9月11日、14日の両日、予算決算委員会を開催して決算内容を審査し、本会議最終日に全ての決算を認定しました。



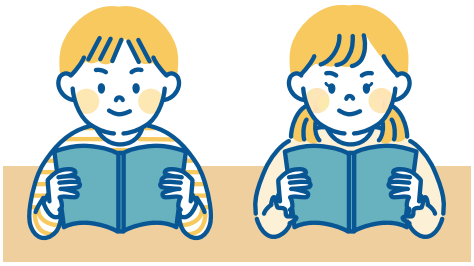


令和７年度決算を

議案第81号令和８年度一般会計補正予算（第２号）

物価高騰対策を含む補正予算を可決しました

物価高騰対策として、鉄軌道運行事業者や路線バス運行事業者を支援します。また、物価高騰等の影響を受けている子育て世帯に対して図書カードを配布することにより、経済的負担の軽減を図ります。



議案第87号令和８年度一般会計補正予算（第３号）

田原市長選挙に係る補正予算を可決しました

田原市長が、田原市議会議員一般選挙と田原市長選挙の同日執行を目指して辞意を表明したため、本年度に田原市長選挙を執行するための予算が可決されました。



一般会計

歳入総額　370億8,545万円
歳出総額　352億6,320万円

市の会計のうち、基礎的な経理を中心とした会計です。
令和７年度の予算は主に次のように使われました。主なもののため、合計は一致しません。（万円未満四捨五入）

令和７年度決算を認定

市長は、翌年度予算を決める３月の定例会までに、前年度の決算について議会の認定を受けなければなりません。
９月11日、14日の２日間にわたり開催された予算決算委員会において決算内容を審査し、本会議最終日に全ての決算を認定しました。

特別会計・企業会計

一般会計と分けて経理する必要があるため、事業別に分けられた会計です。

※万円未満四捨五入

			歳入総額(A)	歳出総額(B)	差引額(A)−(B)
特別会計	国民健康保険		78億6,526万円	77億3,704万円	1億2,822万円
	後期高齢者医療		12億978万円	12億870万円	108万円
企業会計	水道事業	収益的収支	14億956万円	11億8,191万円	2億2,765万円
		資本的収支	1億2,882万円	4億3,232万円	▲3億350万円
	下水道事業	収益的収支	25億4,215万円	25億9,132万円	▲4,917万円
		資本的収支	10億1,902万円	13億2,670万円	▲3億768万円

水道および下水道事業会計（資本的収支）の不足分は、損益勘定留保資金などで補填されました。



総務費
57億5,595万円

まち・ひと・しごと創生推進事業

問　お試し移住補助金の利用実績について、課題をどのように捉えているのか。

答　補助金利用者からのアンケートや聞き取り調査を実施した結果、本市がターゲットとしている子育て世代では、原則2泊以上という利用泊数の要件が利用しにくいことも課題の一つと認識している。

行政情報化推進事務

問　電子申請の対象手続数と申請件数の実績について、前年度と比較してどのように評価しているか。

答　電子申請に対応する手続きが大幅に増加したことで、市民がオンラインで申請できる機会が広がっていることから、市民の利便性向上に一定の効果があったと捉えている。



民生費
100億7,458万円

高齢者外出支援助成事業

問　市民の利便性の向上を図り、令和５年度からタクシー、電車、バスで使用可能な共通助成券を交付しているが、その導入効果は。

答　交付数および使用率ともに上昇していることから、導入による一定の効果があったと認識している。

介護予防普及啓発事業

問　フレイル予防教室の効果は。

答　教室前後の基本チェックリストにおいて、運動、栄養、口腔、認知の各フレイル項目で改善が認められた。特に、鬱（うつ）フレイルでは17・9％という高い改善率を記録している。また、握力や体力測定結果で身体機能の向上が確認できた。



農林水産業費
21億7,204万円

農地基盤整備促進事業

問 **和地太田地区の事業完了年度が令和8年度から令和9年度に変更され、事業期間を1年間延伸した理由は。**

答 道路の一部で湧水が確認され、道路機能を確保するための排水施設を追加する必要が生じた。この追加工事に必要な予算および工期を考慮し、完了年度を令和9年度に延伸した。

多面的機能支払市町村推進交付金

問 **令和7年度の会計実地検査において是正処理および是正改善措置を求められた要因は。**

答 委託により現地確認を行った農用地については、保全管理状況を整理していたが、限られた予算の範囲内での実施であったため、全ての対象農地を確認するまでには至らなかったことが要因の一つと考えている。



商工費
11億3,151万円

観光地維持管理事業

問 **どのような修繕が多かったのか。**

答 主な修繕としては、公衆便所の照明機器や配管など腐食による破損部分の修繕が最も多く、その他には浄化槽関連の機器の劣化により破損した部品等の修繕も行った。

観光推進事業

問 **第2回渥美半島花火大会の評価は。**

答 約4万人の方々が来場し、有料席約千席についても完売した。有料席を中心に実施した来場者アンケートでは、とてもよい、よいを合わせると90%、また、87・3%の方がまた見に来たいとの意向があるなど、来場者からは非常に高い評価を受けている。



土木費
33億1,126万円

景観形成推進事業

問 **ウエルカム花壇には菜の花とひまわりを植えていると思うが、この二つの花を選定した理由は。**

答 田原市の市の花、渥美半島菜の花浪漫街道のシンボルでもある菜の花を渥美半島菜の花まつりの開催時期である1月から3月にかけて咲かせ、夏季の景観形成として、7月から8月にかけてひまわりを咲かせるよう計画したものである。

空き家対策事業

問 **空き家解体促進事業補助金の運用における課題は。**

答 近年、解体にかかる費用が高騰していることや、特に市街化調整区域内にある空き家については、売却等による費用回収が難しいことなどが要因となって解体が進まないことが課題と捉えている。



教育費
49億2,512万円

学校施設開放事業

問 **小学校屋内運動場空調設備使用料については、市条例により1時間当たり650円と定められているが、金額設定は適切であったか。**

答 市の統一基準により算出をした金額を基に、類似施設の田原市総合体育館の現行使用料との比較等を行い、設定した金額となっており、市民サービスの公平性から、適切であると考えている。

共育推進事業

問 **部活動の地域移行による中学校の職員の勤務時間など負担の軽減について、具体的にどのような効果があったのか。**

答 これまで部活動に充てていた時間を授業や行事等の準備に充てることができるようになった。

■令和8年第3回定例会議案一覧表

議案番号	市長提出議案
73	教育委員会委員の任命（田中　早苗　氏）
74	行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用に関する条例の一部改正
75	認可地縁団体印鑑の登録および証明に関する条例の一部改正
76	火災予防条例の一部改正
77	多目的ホール建設工事 田原南部市民館（週休2日）請負契約
78	多目的ホール建設工事 和地市民館（週休2日）請負契約
79	新たに土地が生じたことの確認
80	公有水面の埋立てに伴う字の区域の変更
81	**令和8年度補正予算** 一般会計（第2号）
82	**令和7年度歳入歳出決算認定** 一般会計
83	国民健康保険特別会計
84	後期高齢者医療特別会計
85	水道事業会計利益の処分および決算認定
86	下水道事業会計決算認定

■追加議案

議案番号	議員提出議案
意見書1	「新たな『定数改善計画』」の確実な実施と義務教育費国庫負担制度の堅持および拡充を求める意見書

議案番号	市長提出議案
87	**令和8年度補正予算** 一般会計（第3号）

※賛否の分かれた議案はありませんでした。

主な質疑

議案に対する
委員会・本会議での
議員の質疑・意見です

議案 No.78 多目的ホール建設工事　和地市民館（週休2日）請負契約

問　田原南部市民館多目的ホール建設工事に比べ、工期が1カ月ほど長くなる理由は。

答　以前、畑だった場所に建設するため、造成工事および舗装を行う外構工事が必要なため。

問　市民館が利用できない期間があるのか。

答　一時的に市民館へ入ることができない時間がある場合があるが、市民館とも情報を共有し、事前に利用ができない時間があれば周知を行い、利用者の安全に十分配慮して工事を進めていく。

（9／4　文教厚生委員会）

議案 No.74 特定の個人を識別するための番号の利用に関する条例の一部改正

問　改正による、市民への影響は。

答　生活に困窮する外国人への支援内容や手続きに変更はないことから、市民への影響はない。

議案 No.76 火災予防条例の一部改正

問　今回の条例の一部改正で、火災予防として期待される効果は。

答　飲食店関係者に対し防火意識の醸成を図り、上引き排気ダクトに起因する火災を未然に防ぐことができると考えている。

（9／4　総務産業委員会）

議案 No.81 令和8年度一般会計補正予算（第2号）物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金

問　重点支援地方交付金を活用する事業の選定経緯は。

答　市民生活や事業者への物価高騰の影響、支援の必要性および公平性、事業の実施効果、年度内に確実に執行できるかといった観点に加え、国から示された交付限度額を踏まえて庁内で調整・検討を行った結果、公共交通の支援と子育て世帯に対する支援を選定した。

議案 No.82 令和7年度一般会計歳入歳出決算認定 赤羽根市民センター整備事業

問　大水川の河川改良工事については令和4年度から着手されている中、補正予算を計上してまでの対応が必要となった理由は。

答　対象としている区間の既設護岸が今年7月に老朽化が確認され、次の出水期までに対策を完了させる必要があることから、今回の9月補正予算において事業費を確保し、早期に着工するものである。

問　跡地利用の検討業務について、どのように進めたのか。

答　地元市民や中学校の協力を得てア

（9／7　予算決算委員会）

ンケート調査を実施し、地域の皆さまの意見やニーズを把握した。また、先行事例の調査や民間企業への聞き取りを行った。

問 **地元からはどのような意見が出されたのか。**

答 災害時の避難場所や防災活動の拠点となる防災機能を備えた広場を求める意見のほか、運動やスポーツ、健康づくりなどに利用できる多目的な広場を求める意見があった。

国際化・多文化共生推進事業

問 **グローバルカフェの成果をどのように捉えているのか。**

答 日本人住民と外国人住民の相互理解を図るきっかけづくりの場となり、少しずつではあるが、外国人住民が地域コミュニティの一員として参加できる環境づくりが進んでいると捉えている。

戸籍住民基本台帳事務

問 **令和7年度末の市民全体のマイナンバーカード保有状況はどのようになったのか。**

答 保有枚数は全体で4万8094枚、保有枚数率にすると、82・5％となっており、年々保有枚数率は上昇している。

在宅医療・介護連携推進事業

問 **本事業の課題は。**

答 在宅医療サポートセンターが中心となり、多職種が連携して在宅医療を支援する体制づくりを進めているが、在宅での看取りが進まないことが課題となっている。

問 **在宅での看取りが進んでいかない理由をどのように考えているのか。**

答 急変時の家族の不安や訪問看護の利用が進んでいないこと、さらに、もしものときに備えて自分の望むケアや生き方について、家族や医療ケアチームと話合いを共有するACP人生会議の浸透が不足していると考えている。

子育て世代包括支援事業（妊娠出産）

問 **産後ケア事業を実施する中での課題は。**

答 育児不安など精神面の支援が必要な産婦には特に利用を勧めているが、利用日数が7日以内であり、一時的な心身の負担軽減にとどまることや、きょうだいの世話をする支援者がいないなどの事情で利用につながりにくいことが課題として挙げられる。

（9／11　予算決算委員会）

農業経営活性化事業

問 **農産物の輸出について、令和7年度の取り組みは輸出販路の拡大につながったのか。**

答 香港においてメロンの需要が高まっている中で、通常出荷に加え、輸出商社や愛知県と連携したメロンフェアを香港で実施したことにより、メロンの輸出量の増加につながった。

消防水利維持管理事務

問 **消防水利充足率分析業務委託の実施により、どのような課題があったと捉えているのか。**

答 人口移動による市街地の変化などの状況を踏まえ、配置の最適化を継続して実施する必要がある。既存の防火水槽に関しても耐震性、維持管理面で課題があるものもあり、計画的な修繕・更新など、地域特性を踏まえた配置を進めていくことも必要と捉えている。

スポーツ大会支援事業

問 **アジア大会の会場となる本市としては、サーフィン大会（WSL QS6000 TAHARA PRO）の会場設営に当たり運営上の課題や安全性など、どのような点を検証されたのか。**

答 施設の運営に当たっては、選手、観客、関係者ごとのゾーン分けと動線の明確化に留意し、各エリアを適切に区分けすることで国際大会に求められる安全・セキュリティの確実な確保について検証を行った。

（9／14　予算決算委員会）

■意見書を送付しました

▽「新たな『定数改善計画』」の確実な実施と義務教育費国庫負担制度の堅持および拡充を求める意見書

9月18日の本会議において全会一致で可決し、内閣総理大臣などに意見書を提出しました。

※陳情結果はホームページでもご覧いただけます。

ここが聞きたい 一般質問



一般質問とは、議員が自身の考えや市民の皆さんの声をもとに市の行財政全般について方針や執行状況などを質問することです。

委員会代表質問

居場所への移動が困難な方への支援について

居場所の充実を引き続き図っていく



小川（おがわ） 貴夫（たかお）
文教厚生委員長

動画へGO

上下水道の持続可能な事業運営について

問 **災害対策の具体的な状況と現状の評価、持続可能な事業運営への今後の取り組みは。**

答 施設の耐震化について、水道は基幹管路の整備を優先的に進めており、下水道は下水道処理場から進めている。現状の評価としては、水道の基幹管路の耐震適合率は計画に対して若干の遅れが生じているが、緊急時の貯水機能は緊急遮断弁などの整備により、おおむね確保ができている。下水道の耐震化率は、全国平均と比較すると上回っていることから、適切な整備水準である。そして、新たな取り組みとして県および東三河、西三河の自治体により上下水道の一本化と称する一つの共同組織体への検討が進められている。

問 **下水道事業における水の官民連携において本市が期待する効果は。**

答 主に3点あり、1点目は、民間の優れたノウハウを最大限に活用した維持管理の更新サイクル、2点目は、長期的かつ安定的な施設運営の継続、3点目は、国の交付金制度の有効活用による財政負担の軽減である。

ひきこもり支援について

問 **支援を必要とする方の実態把握の方法は。**

答 相談窓口の利用状況、学校や福祉関係部署、地域の見守り活動等の持つ情報を整理し、必要に応じて検討していく。

問 **支援体制の機能強化は。**

答 ひきこもり支援に関する関係部署、関係機関の役割を整理し、支援をつなぐ調整機能を実情に合わせて強化していく。

問 **居場所への移動が困難な方への支援は。**

答 既存の地域公共交通施策、福祉施策や民間団体の取り組みと、どのように組み合わせられるかを整理し、利用ニーズも踏まえ、居場所の充実を引き続き図っていく。



岡本（おかもと） 重明（しげあき）
総務産業委員長

動画へGO

委員会代表質問

住宅情報だけでなく子育てなど住民サービスも含めた情報発信は

意見交換を行い、課題解決に向け取り組んでいる

地域特性を生かしたまちづくり

問 **農地付き空き家の活用による農業活性化・移住促進における部署間連携と情報発信の強化については。**

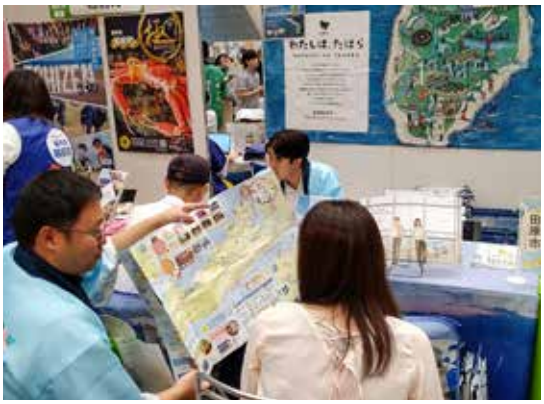
答 移住希望者等が市内の空き家と農地を容易に探せるよう、関連部署間で連携し、利用者目線に立った効果的な情報発信を行っていく。

問 **半農半Xという多様な働き方・生き方を考えている方々に対し、移住推進に向けどのように都市部へアピールしていくのか。**

答 都市部からの移住を検討されている方々を対象とした定住・移住フェアへの出展や、インスタグラムを活用した本市の魅力発信を行っている。

問 **臨海企業を活かしたまちづくりにおける、「働く場所としての田原」から「働き、暮らす場所としての田原」について、臨海企業の従業員の居住ニーズを把握し、住宅情報だけでなく子育てなど住民サービスも含めた情報発信については。**

答 臨海企業および従業員の方を対象とした住まいに関するヒアリングやアンケートを実施し、本市の住まいや暮らしに関するニーズを確認している。臨海企業の従業員が本市に定住するための課題等に関する意見交換を行っており、課題解決に向けて取り組んでいる。



代表質問
P 8 文教厚生委員長 小川（おがわ） 貴夫（たかお） 上下水道の持続可能な事業運営について
ひきこもり支援について
P 9 総務産業委員長 岡本（おかもと） 重明（しげあき） 地域特性を生かしたまちづくり

個人質問
P 10 真野（まの） 尚功（ひさかつ） 地域社会における学校の在り方について
P 10 古川（ふるかわ） 幸宏（ゆきひろ） 渥美半島の防災力強化等に向けた一般道整備について
P 11 辻（つじ） 史子（ふみこ） 「手話リンク」について
頼れる身寄りがいない高齢者等への支援について
高齢者の肺炎球菌感染症予防接種の推進について
P 12 内藤喜久枝（ないとうきくえ） 市民の命を守る熱中症対策について
P 12 中村健太郎（なかむらけんたろう） 将来を見据えた地域環境づくりについて
P 13 小川（おがわ） 金一（きんいち） 情報化推進による行政・産業基盤の強化について
P 14 中神（なかがみ） 靖典（やすのり） これまでの市政運営の総括と今後の進退について



一般質問

小規模校の地域での今後の位置付けは

保護者や地域の思いなどを考慮し議論していく



真野（まの） 尚功（ひさかつ）
自由民主党田原市議団

動画へGO

地域社会における学校の在り方について

問 **小規模校の地域コミュニティでの役割の評価と、今後の位置付けについての考え方は。**

答 児童生徒数の多少にかかわらず、学校は地域コミュニティに関わる存在の一つとして位置付け、地域の実情に応じた教育環境の充実と地域との連携を図っていくことが重要である。保護者や地域の思いなどを考慮しながら、地域コミュニティにおける学校の位置付けについて、将来を見据えた総合的な議論を深めていく。

問 **学校が地域とともに育んできた貴重な教育的価値をどのように維持し、次世代へ引き継いでいくのか。**

答 現在各学校では、地域と連携して学校運営に取り組むコミュニティ・スクールの設置を進めており、これまでも各学校において地域の歴史や文化の継承に取り組んできた。このコミュニティ・スクールを活用し、住民や企業など地域の多様な主体と連携・協働することで、質の高いふるさと学習が実施できると考え、今後も次世代へ確実に引き継ぐことができるよう取り組んでいく。

問 **地域資源を学びに取り入れる柔軟なカリキュラムにより探究学習の充実などが期待できるが、このような体制整備に対する考え方は。**

答 中山小学校において、柔軟なカリキュラム編成ができるサキドリプログラムの承認を受け、先行実施している。学習活動の場を校外に広げ、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした持続可能な教育体制が各学校で構築できるよう支援し、子どもたちが地域と深く関わりながら、より実践的で社会に役立つ学習活動としてのふるさと学習を進めていく。



県との協議によるバイパス整備等と一体的に必要な現道の安全対策は

あらかじめ検討し一体的に計画していく



古川（ふるかわ） 幸宏（ゆきひろ）
自由民主党田原市議団

動画へGO

渥美半島の防災力強化等に向けた一般道整備について

問 **愛知県と連携してどのような取り組みをしていくのか。**

答 県が公表した一般道整備方針に基づき、求められるサービス水準を踏まえつつ、強靭（きょうじん）で信号のない道路の実現を目指し、必要な整備手法について継続的に県と協議・調整していく。さらに、事業化に向けて必要となる調査や関係機関との調整について、県と情報を共有しながら進めるとともに、災害時の緊急輸送を確実に担う防災機能の強化を図るため、国に対して道路計画の具体化に向けた技術的な助言や予算の重点支援を求めるなど、県と連携して取り組んでいく。また、道路計画の進捗段階に応じ、地域住民への情報提供に取り組んでいく。

問 **県との協議によるバイパス整備と現道の安全対策は。**

答 現道の安全対策に関する県との協議については、バイパス整備により、交通量や大型車の交通が著しく増加すると想定される区間において、現在の交通状況や交差点、歩行者の通行状況なども考慮し、将来的な交通



辻 史子（つじ ふみこ）
公明党田原市議団

動画へGO

手話リンクの導入について市の見解は

導入について研究していく

「手話リンク」について

問 **手話リンクは聴覚や発話に障害のある方々には有効なサービスである。運用面において市の実情に合ったルール作りはどのようなことが考えられるか。**

答 受付日時の設定と電話対応窓口の整理、職員が適切に対応できるマニュアルの整備等を含めたルール作りが必要である。

問 **愛知県内でも導入する自治体が増えている。本市において手話リンクの導入について見解は。**

答 先行導入した自治体の運用状況を調査し、導入について研究していく。

頼れる身寄りがいない高齢者等への支援について

問 **頼れる身寄りがいない高齢者等の生活を支援する仕組みを第2種社会福祉事業の中に追加する改正法が、令和8年6月に成立した。日常生活の見守りや金銭管理、各種手続き、死後の葬儀などのサポートを一定の利用料で受けられるものだが、法改正を受け本市の対応は。**

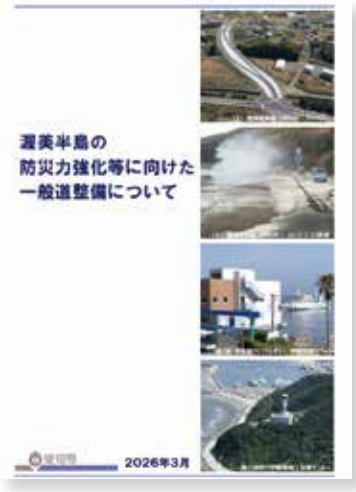
答 今後、国において示される予定の基本方針やガイドライン等の内容を精査し、その上で、本市の実情に応じた重層的な支援体制の構築に向けた検討を進めていく。

高齢者の肺炎球菌感染症予防接種の推進について

問 **令和6年度から対象者が65歳に限定され、令和8年度からは23価肺炎球菌多糖体ワクチンから20価肺炎球菌結合型ワクチンとなり、自己負担額も増額した。制度変更が接種率に影響を与えていないか懸念されるが、本市の取り組みは。**

答 対象者への丁寧な情報提供を行うとともに、予防接種の動向に注視しながら、引き続き予防接種の推進に取り組んでいく。





環境の変化や安全上の課題を把握し、協議していく。また、現道の安全対策の取り組みとしては、防災機能の強化だけでなく現道活用区間の交通環境の変化にも適切に対応する必要がある。このため、県と連携し、必要な安全対策をあらかじめ検討するとともに、バイパス整備計画と一体的に計画し、防災機能と日常の安全・安心が両立する道路整備に向け取り組んでいく。

市民の命を守る熱中症対策は

高齢者をはじめリスクの高い方への注意喚起や実践できる予防対策を分かりやすく周知する



内藤（ないとう） 喜久枝（きくえ）
自由民主党田原市議団

動画へGO

市民の命を守る熱中症対策について

問 **市民の命を守る熱中症対策は。**

答 高齢者をはじめリスクの高い方への注意喚起や日頃から実践できる予防対策を分かりやすく周知し、関係機関と連携しながら熱中症による健康被害の防止に万全を期す。

問 **今後のクーリングシェルターの拡大について、市の考えは。**

答 今後も民間施設を含め、地域の実情を踏まえながらさらなる設置の拡大を推進していく。

問 **熱中症の救急要請における場所と発生傾向は。**

答 発生場所は住居が最も多く、全体の約5割を占めている。次いで工場や農畜産等の仕事場での要請が約2割となっている。

問 **熱中症は後期高齢者の割合が最も多く、全体の4割を占めているが、特に1人暮らしの在宅高齢者に対しての取り組みは。**

答 引き続き地域での声かけ等をお願いするとともに、ボタンを押すと相談や緊急事態に対応できる緊急通報システムの導入をしている。

問 **過酷な暑さから農業者を守り、少しでも安心して作業を行える環境を整えるための市の支援策は。**

答 作業の効率化や省力化につながるスマート農業の推進に努めている。スマート農業技術の導入は、作業時間の短縮や作業負担の軽減につながる有効な支援策であると考えている。



臭気調査を契機として、どのような対策に取り組んでいくのか

積極的に情報収集し、効果的な臭気対策に取り組んでいく



中村（なかむら） 健太郎（けんたろう）
国民民主党田原市議団

動画へGO

将来を見据えた地域環境づくりについて

問 **悪臭対策について、本市の重要な基幹産業である農畜産業を守りながら地域住民の生活環境も守る、産業と暮らしの共存をどのように実現するかという視点が重要と考える。これまでの対応の評価と、今後の対策は。**

答 相談や苦情に対し、現地確認や改善指導を実施、未然防止対策として広報や週3回のパトロールによる啓発、施設改修への補助などを行ってきた。管理状況の改善や苦情の減少は見られるが、課題は残っている。今年度、新たに豊橋技術科学大学と連携し、どのような気象条件でどこまで臭気が届くかを科学的に調査する。これまでのパトロールや施設改修支援、県と連携した立入り調査を継続しつつ、この調査結果を畜産農家などと共有し、より効果的な対策につなげていく。

問 **畜産臭気の低減のため、今後どのような対策に取り組むのか。**

答 新たな対策の研究や臭気対策に効果のある新たな技術、他自治体の取組事例などを積極的に情報収集し、畜産農家と連携しながら効果的な臭気対策に取り組んでいく。



小川 金一（おがわ きんいち）
自由民主党田原市議団

動画へGO

地域ＤＸの成果を市民にどう示すのか

ＤＸ白書等での公表を検討する

情報化推進による行政・産業基盤の強化について

問 **市のデジタル社会形成方針には一律の成果指標（ＫＰＩ）の設定がないが、地域ＤＸ（※）の成果をどう示すのか。令和12年度までの5年間の取り組みの成果を判断する代表的な指標を設け、事業費や達成状況を市民に公表するべきではないか。**

答 方針全体については、全庁的な指標、個別事業の成果、市民や職員の意識等を組み合わせ、総合的に評価する。電子決裁率、オンライン申請件数、印刷枚数、生成ＡＩの活用による削減時間などを継続して確認し、今後は、その達成状況等について、ＤＸ白書を活用するなどして、市民に分かりやすい形での公表につなげていく。

問 **ＤＸ人材育成の方針はいつまでに位置付けるのか。**

答 国の自治体ＤＸ推進計画では、デジタル人材の確保・育成方針を令和９年度までに策定することが求められていることを踏まえ、本市も同年度までに田原市職員人材育成基本方針へ位置付ける。

問 **スマート農業データ連携基盤の構築に向けた今後の方針は。**

答 急速に進展するデジタル技術や関連サービスの動向を的確に捉え、農業者におけるデータ活用の広がりやニーズを見極めながら、連携基盤を構築する必要性について調査研究する。

問 **農業者のニーズをどのように方法で把握するのか。**

答 令和９年度のたはら農業プラン見直しに向け、今年度中に農業者アンケートを実施し、品目や経営形態ごとのデータの利用状況や活用意向、導入上の課題、必要とする支援等を把握していく。

※ 地域ＤＸ
デジタル技術を活用し、課題解決や住民サービス向上、産業・行政の変革等を進める取り組み。

問 **有害鳥獣対策について、イノシシやヌートリアに加え、これまで市内で見られなかったカモシカなども出没し、生息域が拡大していることから、農作物被害だけでなく、人的被害への備えも必要と考えるが、市の認識と今後の進め方は。**

答 市内全域で有害鳥獣の捕獲数が増えており、生息域の拡大による被害への備えの重要性を認識している。今後は、地域ぐるみでの学び、寄せつけない環境づくり、侵入防止の対策、捕獲の対策を柱に被害防止対策に取り組み、地域での効果的な捕獲や防除の体制の構築、自らも捕獲者として狩猟団体に加わる方を増やすようなきっかけづくりを進める。



令和８年熊本地震の被災地の方々を支援するため、全議員18人で災害義援金として10万円をお贈りしました。地震により犠牲になられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げます。

今後の進退について

新しい力に委ねることが適切と考えている



中神 靖典（なかがみ やすのり）
田原自民クラブ

動画へGO

これまでの市政運営の総括と今後の進退について

問 **市長3期12年の市政運営を総括し、その評価をどのように捉えているか。**

答 就任当初に掲げた渥美半島を元気にという強い思いのもと、市政運営にまい進してきた。1期目は、基幹産業である農業の推進、定住・移住促進奨励金制度の創設、サーフィン世界大会の開催等、交流人口の拡大に取り組んできた。中学校の統合による教育の充実や、赤羽根診療所開設等により地域医療体制の充実を図るとともに、津波避難マウンドの整備等災害に強いまちづくりを進めてきた。2期目は、豚熱の発生、新型コロナウイルスのまん延による地域経済の落ち込みの回復に努めてきた。三河田原駅前に商業施設ララグランを整備、親子交流館を開設、小中学校へのエアコン設置等、子育て・教育環境の充実を図ってきた。3期目は、保育料や給食費の無償化や18歳までの通院・入院費等の助成、市民館・多目的ホールの整備により地域の防災力強化に努めてきた。令和8年9月に完成する田原公共埠頭（ふとう）のマイナス10メートル岸壁は、本市の活性化につながると期待している。就任以来訴えてきた渥美半島の強靱（きょうじん）で信号のない道路については、渥美半島道路の構想を残しつつ、愛知県が今年3月に半島防災を最優先に国道259号の既存道路を活用した一般道路整備方針を公表したことで、成果が着実に進み始めたと感じている。

問 **今後の進退についての考えは。**

答 気力や体力はあるが、今後の市政を考え、新しい力に委ねることが適切と考えている。市長就任当初から、可能であれば選挙を一つでも減らしたいという思いを持っていた。令和9年は、1月の市議会議員選挙を皮切りに4つの選挙が見込まれる。選挙をある程度まとめることで投票率の向上や選挙経費の削減にもつながることから、来年4月の任期満了を待たず、市議会議員選挙に合わせられるよう辞職することを考えている。

議会ホームページで本会議（一般質問）の映像を見ることができます

パソコン・スマートフォン・タブレット端末で本会議（一般質問）の映像を見ることができます。



利用方法

①下の二次元コードかアドレスからアクセス
②視聴したい定例会、日程、議員を選択

https://www2.city.tahara.aichi.jp/gikai/

スマートフォンで議会だよりが読めます

無料アプリ「マチイロ」で「議会だより」をスマートフォンでご覧になれます。
簡単な設定を行えば、議会だよりの発行に合わせて通知が届き、移動中などちょっとした空き時間にご覧になれます。ぜひ、ご利用ください。



利用方法

①下の二次元コードかアドレスからアクセス
②「マチイロ」をダウンロード
③個人設定→お住まいの地域を「田原市」に設定

マチイロ
マチを好きになるアプリ

https://machiiro.town/lp/aichi_tahara

議員とたはらトーク

若者対象



8月11日（火・祝）渥美文化会館で、25歳以下の若者を対象に田原の未来についてをテーマに意見交換を行いました。頂いたご意見は議員全員で共有し、政策提案等の検討材料としていきます。

ご意見

- 市内の交通網が発達していないため行きたい場所に行けない。自動運転のバスを常時、市内に走らせるなど公共交通の充実を図ってほしい。
- 地元就職を前提とした奨学金を作ってほしい。
- スポーツに力を入れた市立高校をつくり、人を集めたらどうか。
- 若者が遊べる場所が少ないので、アトラクションのある施設を誘致してほしい。
- 高校生・大学生向けの学生寮を田原駅周辺に作ってほしい。
- 近隣市の真似をするのではなく、「たはら」でしかないものをつくったらどうか。





感想

- 普段話せない議員と、田原の未来について話せて楽しかった!
- 魅力ある田原をもっと広めていきたいと思った。
- 次回も参加して、他の議員とも話してみたいと思った。

議員とたはらトーク ＼開催します／

日　　時：令和8年11月5日（木）
　　午後7時から午後8時30分まで
場　　所：若戸市民館　多目的室
対　　象：一般市民
定　　員：30人（受付順）
意見交換会テーマ：産業やまちの活性化
　　誰もが暮らしやすいまち
　　その他
申込方法：11月2日（月）までに右の二次元コードからお申し込みください。

↓申込みはこちらから

■実 施 方 法：初めに令和8年第3回定例会の議会報告を行います。その後、6～7名程度のグループに分かれて、テーマについて意見交換を行います。

■問い合わせ：田原市議会事務局
☎ 0531-23-3533
✉ gikai@city.tahara.aichi.jp

「声の広報」として16年　朗読録音奉仕奨励賞を受賞

長年にわたり、声の広報ボランティアとして活躍されている村岡美穂子さんに、公益財団法人鉄道弘済会、社会福祉法人日本盲人福祉委員会から朗読録音奉仕奨励賞が贈られました。10月14日（水）に市役所で贈呈式が行われ、内藤喜久枝広報広聴委員長が同席し、村岡さんにお祝いと日頃のお礼を伝えました。

声の広報は、議会だよりや広報たはらをボランティアの方が朗読してCDに録音したもので、視覚に障害がある方や図書館などに配布しています。



「声の広報」ボランティアに参加しませんか

声の広報ボランティアは昭和60年から活動を始め、現在9名で活動しています。仲間を募集中ですので、興味のある方はぜひご連絡ください。

●問い合わせ先：広報秘書課　☎0531-22-0138

会派の構成

令和８年８月１日より、新たな会派が結成され、構成が次のようになりました。

会派名	所属議員数	会派名	所属議員数	会派名	所属議員数
田原自民クラブ	7	自由民主党田原市議団	5	市民クラブ	2
公明党田原市議団	1	青嵐会	1	国民民主党田原市議団	1
進政会	1				

行政視察報告

総務産業委員会

（7月13日～15日）

【視察テーマ・視察先】

- 「スマートシティに関する取り組みについて」（福島県会津若松市　一般社団法人AiCT（アイクト）コンソーシアム）
- 「定住・移住施策と空き家対策について」（栃木県栃木市）
- 「まちなかリバースプロジェクトについて」（栃木県日光市）





【参考になった点・所感】

- 民間企業の視点が地域マネジメントを進め、市民、地域、企業の三方良しの共助モデルとなっている。（福島県会津若松市　一般社団法人AiCTコンソーシアム）
- 調査結果や環境分析を踏まえ、栃木市の特性や移住・定住施策、基本方針に共感を得やすい層にターゲットを絞って、支援策の見直しやプロモーションを展開している。（栃木県栃木市）
- 本市においても、まちなかにぎわい事業の実証実験が行われているが、今後住民、企業、商工会議所等連携したつながりと広がりを持つ事業にしていければと感じた。（栃木県日光市）

行政視察報告

文教厚生委員会

（7月21日～23日）

【視察テーマ・視察先】

- 「下水道汚泥の肥料化　コンポスト化について」（滋賀県北部流域下水道事務所）
- 「ひきこもり支援事業について」（岡山県総社市）
- 「子どものいじめ防止対策について」（大阪府寝屋川市）





【参考になった点・所感】

- 環境保全・資源循環・地域連携を兼ね備えた取り組みであり、持続可能な汚泥処理モデルとして参考になった。（滋賀県北部流域下水道事務所）
- 社会福祉協議会がひきこもり支援の司令塔となる体制は参考になった。見守り体制が地域にしっかり根付いており、住民参加型の施策となっている。（岡山県総社市）
- いじめ相談があれば監察課が素早く被害者へ連絡し、複数名に聞き取りを行うなど、行政が迅速かつ権限を持って介入できる点は、いじめの早期停止に大きく寄与している。（大阪府寝屋川市）

行政視察報告

広報広聴委員会

（7月27日～28日）

【視察テーマ・視察先】

・「広報広聴活動の取り組みについて」
（兵庫県丹波市、兵庫県宝塚市）





【参考になった点・所感】

・大学生や高校生との意見交換会を積極的に行い、テーマを生徒に提案してもらっていたり、議場を活用して生徒が議員に提案をしていることは、主権者教育の観点からとても素晴らしい取り組みで本市でも実現できたらと感じた。（兵庫県丹波市）
・本会議・委員会のライブ配信および録画配信を専門業者へ委託し、事務局は機材操作・編集作業を行わずに高品質な配信を実現しており、少人数体制でも安定した運営が可能となっていた。（兵庫県宝塚市）

行政視察報告

議会運営委員会

（7月30日～31日）

【視察テーマ・視察先】

・「調査研究結果を基にした市長への提言について」（岐阜県多治見市）
・「政策立案に関するガイドライン、政策提案書について」（兵庫県加東市）





【参考になった点・所感】

・意見交換を中心とした市民と議会との対話集会が行われており、常任委員会ごとに報告書をまとめ、その報告書の中から提言に結び付け、提言書として行政に提出されている。（岐阜県多治見市）
・議会基本条例には、政策立案に取り組む旨が規定されているが、実例に乏しいこと等から政策立案に関するガイドラインが策定された。策定後は、委員会での調査・提案、当局との調整、合意形成の形で進められており、実績としては令和５年度以降４件の政策提案をしている。（兵庫県加東市）

議会の活動

7月8日
第34回東三河市町村議会議長協議会定期総会



新城市で開催され、正副議長が出席しました。

7月15日
東三河市町村議会議員・議会事務局職員合同研修会



「社会の変化とこれからの学校教育～主体性と当事者性～」をテーマに開催された研修会に参加しました。

9月5日・6日
第40回トライアスロン伊良湖大会開会式・大会



大会前日の開会式に続き、大会当日には選手に声援を送るとともに、表彰式では議長が上位入賞者の健闘をたたえました。

9月8日・9日
行政評価勉強会



令和7年度に実施した市の事業の成果や、令和8年度以降の課題解決に向けた方針について勉強会を開催しました。

9月30日～10月3日
韓国訪問



議長が市長と共に姉妹都市である韓国ソウル特別区銅雀区等を訪問し、交流を深めました。

10月5日
豊橋・湖西・田原市議会議長協議会要望活動



浜松湖西豊橋道路の早期事業化について、国土交通省中部地方整備局に要望しました。

お知らせ information

令和８年第４回定例会（12月議会）会期

12月3日(木)～12月17日(木)

日	月	火	水	木	金	土
11/29	30	12/1	2	3 本会議（議案審議）	4	5
6	7 本会議（一般質問）	8	9	10 文教厚生委員会 総務産業委員会	11 予算決算委員会	12
13	14	15 議会運営委員会	16	17 本会議（採決等）	18	19
20	21	22	23	24	25	26

開会時刻は10時です。（12月10日の総務産業委員会は13時30分からです。）

※日程および時間は、変更になる場合があります。

マークの日に、一般質問の映像をケーブルテレビ・インターネットで中継していますので、ぜひご覧ください。

本会議・委員会は、誰でも傍聴できます。

まちかど

インタビュー

Vol.51

田原青年会議所
ひとまちチャレンジ委員会委員長
三浦大輔さん

第42回ちびっこ道場「勇者の大冒険 ～掴もうぜ！手に入れろ！挑戦の力！～」

―今回の「ちびっこ道場」は、どのような目的で企画された事業か。

子どもたちに普段なかなかできない体験や試練に挑戦してもらい、挑戦する心を育むことを目的に企画しました。RPGの勇者をテーマに、仲間と協力しながらさまざまな試練に挑戦する内容です。

委員会としては、失敗しても諦めず、やってみようと一歩を踏み出すきっかけを子どもたちに作りたいという思いがありました。

―実際に参加した子どもたちの様子を見て、特に印象に残った場面は。



難しい試練にも諦めずに挑戦し、クリアしたときに仲間と喜ぶ姿がとても印象に残っています。子どもたちの姿を見て、私自身も挑戦することの大切さを改めて感じました。

―特に大山登山は、早朝から仲間と山頂を目指す大きな挑戦だったと思うが、子どもたちの姿を見て、何を感じたか。

安全面を考慮して途中で引き返したため、私自身は悔しい思いがありました。しかし、アンケートでは一番頑張ったとして大山登山を挙げる子どもも多く、「また登りたい」という声もありました。登頂できなかったことも含め、今回の経験が次の挑戦につながったと感じています。



―今回の事業を通じて、地域の大人が子どもたちと関わることについて、どのような大切さを感じたか。

大人がすぐに答えを教えるのではなく、子どもたち自身が考え、挑戦できる環境をつくることが大切だと思います。安全面ではしっかり支えながら、子どもたちのやってみようという気持ちを応援していきたいです。

―今回の経験を踏まえて、これから田原の子どもたちや地域に対して、どのようなことをしていきたいか。

これからも子どもたちが新しいことに挑戦できる機会を作っていきたいです。地域の大人みんなで子どもたちを見守り、やってみようと一歩を踏み出せる田原のまちを作っていきたいです。

（聞き手：中村健太郎）令和8年8月取材

発行/愛知県田原市議会　編集/ 広報広聴委員会　〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30-1　☎ 0531-23-3533　FAX 0531-22-5952
https://www2.city.tahara.aichi.jp/gikai/ gikai@city.tahara.aichi.jp

募集
パートさん
しその葉の摘み取り作業
内職さん
しその葉の結束・パック詰め
（応募）まずはお気軽にお電話ください。
TEL 0531-37-0447
（有）前田園芸　田原市江比間町二字郷中45
自宅：TEL0531-37-0447



株式会社ケアサポートにじいろ
・シニアハウスにじいろ田原　・訪問介護にじいろケア
・デイサービスにじいろ田原　・にじいろケアプランセンター
田原市豊島町道南22番地3　代表TEL　0531-29-0501

※財源確保のため、有料広告として掲載しています。広告については、田原市議会が推奨するものではありません。